

# 株式会社カンセキ 第37期第2四半期決算説明資料

---

(2010年3月1日～2010年8月31日)



2010年10月  
株式会社カンセキ

当社は、「住まいと暮らしを豊かに快適にするための商品とサービスを提供し、地域の皆様の生活文化の向上に役立つ」を経営理念として、1975年の創業より主力であるホームセンター事業を核に、アウトドア専門店など複数の事業を展開してまいりました。

私どもが目指しますのは、当社独自の「ネットワーク型業態融合」であり、複数の業態を組み合わせることによって、日常における「快適な暮らしの創造」から、「人生を豊かにするライフスタイルの提案」に至るまで、様々な顧客ニーズに対応することが可能になります。

その実現に向け中核を担うホームセンター事業では、栃木県を中心とする自社商勢圏において、地域特性を捉えた新しい出店政策による業容の拡大を進めてまいります。また、30余年の間、地元密着の経営で培ってきた当社独自のノウハウに更なる磨きをかけるとともに、スローガンとして掲げる「お客様にとって、安心・親切・便利な店」の徹底に努め、地域の皆様に愛される「地域一番店」であり続けるために、たゆまぬ努力を重ねてまいります。

代表取締役 長谷川 静夫

## 主な事業内容

当社グループにおける事業のセグメントとしては、主管事業として「ホームセンター」「WILD-1」ならびに補完事業として「食品販売」「リユース」「不動産賃貸」「飲食」の各事業があります。



DIY用品、家庭用品、カー・レジャー用品、文具、食品等の販売を行っておりますが、特にペット、自転車、住まいのお手伝いについて専門分野として注力しております。



アウトドアライフ関連用品の販売とともに、アウトドア・イベントの実施や、全国のアウトドア・フィールドとの提携により、アウトドアライフを推奨しております。



業務用食材における「食の製販一体」の強みを発揮し、「エブリディ・ロープライス」「食の安心・安全」に取組み、「食卓応援&爆弾価格」などのキャンペーンの実施により、業務需要以外に一般のお客様からも支持を得ております。



環境問題への関心が高まる中、地域のお客様へ「リユース・リサイクル」を基本とした循環型の消費を提案しております。

当第2四半期連結累計期間(平成22年3月1日から平成22年8月31日まで)におけるわが国経済は、一部に持ち直しの動きも見られるものの、長引く不況の中、依然として企業収益は本格的な回復に至らず、併せて雇用・所得環境の改善もみられないことから、個人消費が低迷する厳しい状況が続きました。

このような経済状況の中、主力であるホームセンター事業は、春先からの低温による影響で園芸関連等の季節商品が低迷しましたが、梅雨明け以降は一転して猛暑となり夏物季節商品の販売が好調に推移したものの、当第2四半期連結累計期間の売上高は既存店ベースで前年をやや下回る結果となりました。

WILD-1事業につきましては、引き続き前年同四半期を上回る売上高で推移しております。トレッキング人気の継続が全体の売上を牽引しており、特に昨年来の女性アウトドアブームをしっかりと受け止め、WILD-1の固定客として取り込む行動が結果に繋がっております。

不動産事業につきましては、計画通り安定した利益をあげております。

その他の事業につきましては、食品販売事業において、昨年は新型インフルエンザによる影響で地域行事や催事などが中止され売上高に影響がございましたが、当年度はマイナス要因も無く活況を取り戻し、業務需要や一般のお客様への売上が好調でありました。また、リユース事業は高額な商品の動きが好調に推移するとともに、猛暑による夏物衣料の販売が伸張し売上に貢献いたしました。この結果、前年同四半期を上回る業績となりました。

以上の結果、当社グループにおける当第2四半期連結累計期間は、主として前連結会計年度の店舗閉鎖等による売上高の減少により、売上高149億33百万円(前年同四半期比7.0%減)となりましたが、粗利益率(前年同四半期比0.9%増)の向上ならびに販売費一般管理費の見直し及び削減に努めた結果、営業利益5億69百万円(前年同四半期比0.1%増)、経常利益3億97百万円(前年同四半期比19.6%増)及び四半期純利益1億69百万円(前年同四半期比20.0%増)となり、前年同四半期と比較して営業利益、経常利益及び四半期純利益は増益となりました。

# 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
区分	当第2四半期 連結会計期間末 (2010年8月31日)	前第2四半期 連結会計期間末 (2009年8月31日)	前四半期比	区分	当第2四半期 連結会計期間末 (2010年8月31日)	前第2四半期 連結会計期間末 (2009年8月31日)	前四半期比
流動資産	6,436	6,225	103.4%	流動負債	10,903	11,282	96.6%
商品	4,155	4,188	99.2%	短期借入金	6,201	6,410	96.8%
その他	2,281	2,037	112.0%	1年以内償還予定の 社債	78	106	73.6%
固定資産	20,717	21,475	96.5%	その他	4,623	4,766	97.0%
有形固定資産	16,495	16,903	97.6%	固定負債	12,225	12,412	98.5%
無形固定資産	799	789	101.2%	社債	—	78	—
投資その他の資産	3,422	3,782	90.5%	長期借入金	9,962	10,165	98.0%
繰延資産	0	0	63.6%	その他	2,262	2,168	104.4%
				負債合計	23,129	23,695	97.6%
				株主資本	4,037	3,993	101.1%
				評価・換算差額等	△ 12	13	—
				純資産合計	4,025	4,006	100.5%
資産合計	27,154	27,701	98.0%	負債及び純資産合計	27,154	27,701	98.0%

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2010年3月1日 至 2010年8月31日)		前第2四半期連結累計期間 (自 2009年3月1日 至 2009年8月31日)		前四半期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	14,933	100.0%	16,057	100.0%	93.0%
売上総利益	4,297	28.8%	4,472	27.9%	96.1%
営業収入	717	4.8%	711	4.4%	100.8%
営業総利益	5,014	33.6%	5,183	32.3%	96.7%
販売費及び一般管理費	4,445	29.8%	4,614	28.7%	96.3%
営業利益	569	3.8%	568	3.5%	100.1%
経常利益	397	2.7%	332	2.1%	119.6%
当期純利益	169	1.1%	141	0.9%	120.0%

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

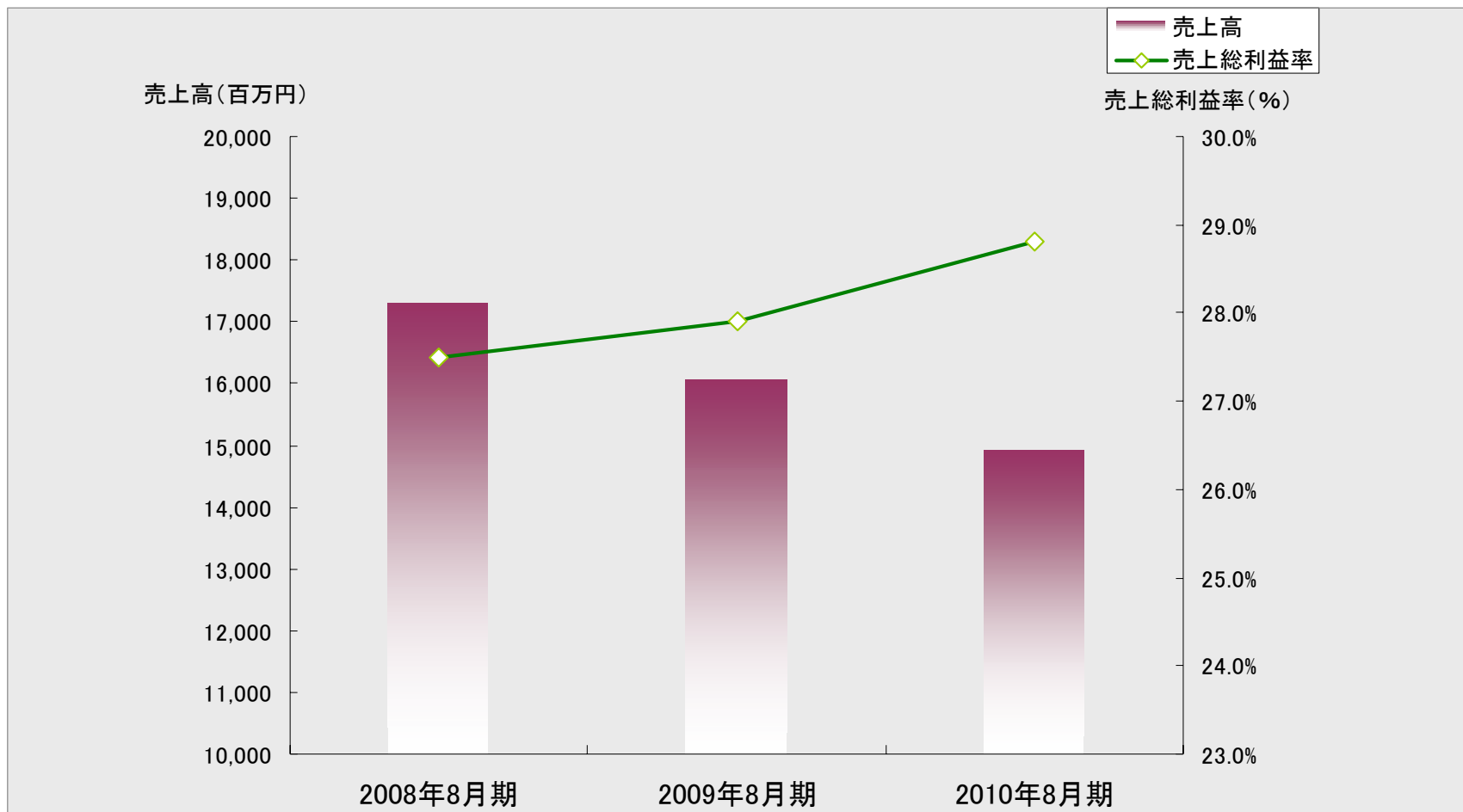
	当第2四半期連結累計期間 (自 2010年3月1日 至 2010年8月31日)	前第2四半期連結累計期間 (自 2009年3月1日 至 2009年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	921	1,050
税金等調整前当期純利益	372	226
減価償却費	233	242
支払利息	183	251
売上債権の増減額(△は増加)	△ 65	△ 25
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 13	247
仕入債務の増減額(△は減少)	394	184
その他	48	169
小計	1,153	1,296
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	△ 186	△ 244
法人税等の支払額	△ 49	△ 4
投資活動によるキャッシュ・フロー	44	97
有形固定資産の取得	△ 48	△ 105
無形固定資産の取得	△ 5	△ 16
保証金・敷金の差入による支出	△ 36	△ 18
保証金・敷金の回収による収入	157	181
預り保証金の返還による支出	△ 19	△ 20
預り保証金の受入による収入	3	76
その他	△ 6	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 612	△ 1,303
短期借入金の純増減額(△は減少)	△ 1,100	△ 522
長期借入による収入	1,370	—
長期借入金の返済による支出	△ 807	△ 718
社債の償還による支出	△ 53	△ 53
その他	△ 20	△ 9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	353	△ 155
現金及び現金同等物の期首残高	1,062	1,388
現金及び現金同等物の第2四半期末残高	1,415	1,232

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(百万円)

	2008年8月期	2009年8月期	2010年8月期
売上高	17,294	16,057	14,933
売上総利益	4,753	4,472	4,297
売上総利益率	27.5%	27.9%	28.8%

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

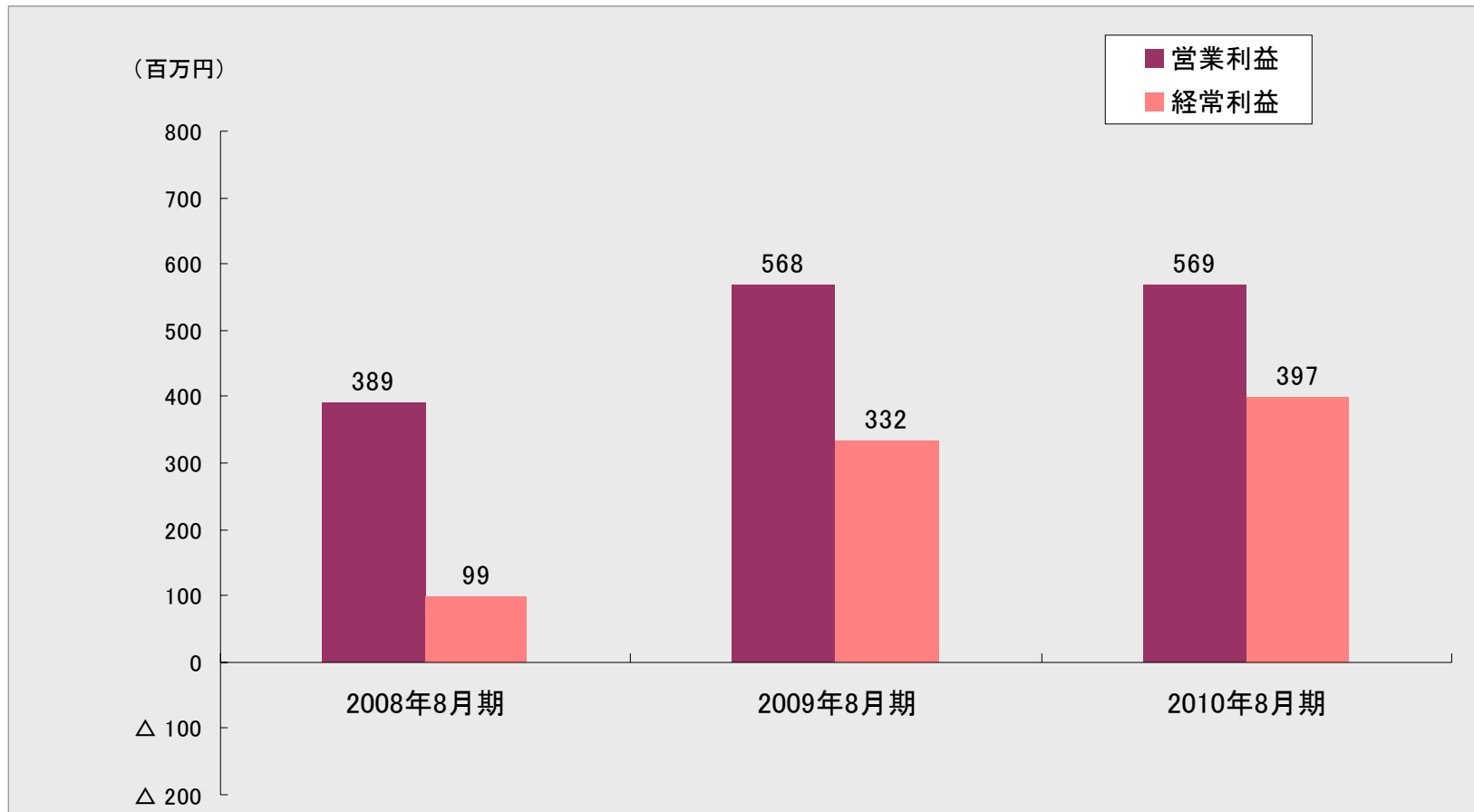




(百万円)

	2008年8月期	2009年8月期	2010年8月期
営業利益	389	568	569
経常利益	99	332	397

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



# 事業の種類別セグメント営業収益(連結)

(単位:百万円)

事業	当第2四半期連結累計期間 (自 2010年3月1日 至 2010年8月31日)		前第2四半期連結累計期間 (自 2009年3月1日 至 2009年8月31日)		営業収益伸長率	構成比増減
	営業収益	構成比	営業収益	構成比		
ホームセンター	9,942	63.5%	11,310	67.5%	87.9%	△ 4.0%
WILD-1	2,965	19.0%	2,831	16.9%	104.7%	2.1%
不動産賃貸	555	3.5%	537	3.2%	103.2%	0.3%
食品販売	1,545	9.9%	1,461	8.7%	105.8%	1.2%
リユース	499	3.2%	474	2.8%	105.3%	0.4%
飲食	171	1.1%	184	1.1%	92.8%	—
小計	15,680	100.2%	16,800	100.2%	93.3%	—
消去	△ 29	△ 0.2%	△ 30	△ 0.2%	93.8%	—
合計	15,651	100.0%	16,769	100.0%	93.3%	—

(注)営業収益=売上高+営業収入

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等は含まれておりません。

ホームセンター ……DIY用品、家庭用品、カー・レジャー用品、文具、食品等

WILD-1 ……アウトドア用品

不動産賃貸 ……不動産賃貸等

食品販売 ……業務用食材等

リユース ……リサイクル商品

飲食 ……飲食店

## 2011年2月期の業績予想(連結)

	2010年2月期(実績)	2011年2月期(予想)	前期比
売上高(百万円)	29,988	28,345	94.5%
営業利益(百万円)	681	710	104.2%
経常利益(百万円)	271	343	126.1%
当期純利益(百万円)	16	102	612.4%
1株当たり 当期純利益	1円13銭	6円89銭	609.7%

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は業況の変化等により予想数値と異なる場合があります。

## 2011年2月期の取組みについて(対処すべき課題)

効率的な店舗運営

マーチャンダイジングの再構築

利益率の改善

在庫の効率化

ドミナントエリアにおける深耕  
(地域のお客様との繋がり)

より良いサービス (Good Service)

接客技術の向上

顧客満足度の向上

商品知識・技能の習得

## ご注意

- 本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際には、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ



株式会社カンセキ 総務部

TEL 028-658-8123

FAX 028-659-3621